

学校教育方針		中・長期目標			
人間尊重の基盤に立って、学習を深め、心身ともに健全で情操豊かな人間形成を目指す。そのために、本校を取り巻く地域社会の特質と生徒の実態をふまえて、次の項目に重点を置く。 1. 自主性・積極性を育てる。 2. 学力・気力・体力の充実向上をはかる。 3. 連帯感を培い、社会性を養う。		1 健全でバランス感覚に優れ、自ら考え自ら行動することができ、地域社会へ貢献できるような生徒の育成をはかる ① 幅広い教養を身につけた生徒 ② 学校における諸活動に意欲的に取り組むことができる生徒 ③ 清掃・挨拶がしっかりできる、礼儀正しく、基本的な生活習慣の身についた生徒 2 自らの強い意志で将来の進路開拓に臨む生徒の育成 ① 知的好奇心が豊かで、積極的に自らの学力を高め進路を実現しようとする生徒 ② 体験入学、企業体験、ボランティア活動などに積極的に取り組み、進路実現に意欲的な生徒			
		今年度の重点目標	評価	成果と課題・改善策	
		1 学習活動を柱とした学校生活における諸活動に意欲的に取り組み、自己の進路実現に向けて努力する 生徒を育てる。 2 基本的な生活習慣が身につく、挨拶や清掃に積極的に取り組める生徒を育てる。 3 いじめや体罰のない安心かつ安全な学校づくりに務める。	B	1 コロナ禍においても学習活動へ前向きに取り組む姿勢が見られた。生徒が自ら進路を開拓できるように指導を継続したい。また、生徒会活動へも意欲的に参加する姿が見られた。 2 多くの生徒が基本的な生活習慣を身につけ、規則正しい生活を送っている。今後は継続して清掃活動等への積極的な参加を促す指導を心掛けたい。 3 大きな問題は見られなかった。今後とも常にアンテナを高くし、職員間の連携を密にしながら生徒とのコミュニケーションを一層深めたい。	
学年	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
1学年	生徒一人一人が、自らの進路実現に向けて具体的な取り組みができるように、援助する。	1	1、積極的な学習活動に取り組めるような指導やアドバイスができたか。 2、生徒自身が自分の進路を考えられるようなきっかけとなる取り組みができたか。	A	1.学校全体の年間授業計画が変更される中ではあったが、土曜日補習「しなの木セミナー」の実施や臨機応変に指導・アドバイスをこなせた。 2.計画通りの十分な取り組みはできなかったが、進路相談会や教養講座の実施、リモートによる講演会、職業ガイダンスなど、生徒が自分の進路を考えるきっかけは、与えられた。
	基本的な生活習慣の確立。	2	1、学年全体として生活リズムを意識させるための取り組みができたか。 2、講習会等も企画しながら、社会生活に役立つ指導ができたか。	C	1.コロナ禍での学年スタートになってしまい、電話や郵送による個別連絡などをおこなったが、生活リズムをつけさせることにはかなり苦労した。また、再開後も自宅待機の影響は一部残ってしまった。 2.健康や社会生活に役立つような企画を予定していたが、ことごとく中止せざるを得なかった。
	いじめのない安心な学校づくり。	3	1、生徒一人ひとりが他者を尊重した人間関係を築くための援助や指導ができたか。	A	1.「しなの木談話」(週1話)を通年で実施したことで、いろいろな人の言葉に耳を傾け、自らを醸成する援助ができた。また、探究活動を通して学年内の生徒間交流ができ、他者を尊重する体験をさせることができた。
2学年	生徒個々を生かした、適切な学習・進路指導。	1	学年目標に「自主的に学習」を掲げている。希望進路実現のための準備、また努力について適切な指導ができたか。	A	「自主的な学習」は生徒個々の努力目標でもある。模擬試験(小論文も含め)の導入、卒業生を招いての進路実現のための講話等、目標達成のための指導は継続している。授業選択講座にも、理系特化の導入をして成果が出てきている。
	いじめのない安心な学校づくりに努める。	3	学年目標の第2として「元気・やる気・助け合いの精神を保つ」とした。講習会等の企画も含め、学校に気持ちよく登校できる学校づくりにできたか。	A	コロナ禍により講習会の機会は減ったが、掃除等の日常生活習慣や学習環境の様子から、基本的な学校づくりはできている。新生徒会役員の選出にほとんど支障がなかった点も、充実度が伺える。
	基本的な生活習慣を確立させる。	2	学校生活の元となる基本的な生活習慣を確立、実行できるよう適切な指導を行えたか。	B	遅刻・早退が比較的少なく、生活習慣の乱れがある生徒は少ない。ただし昨年度から課題となっているスマホ依存症ともいうべき生徒の一部実態はまだまだあり、引き続き来年度への課題である。
3学年	基本的な生活習慣の確立	2	卒業後を考える上でも必須である、基本的な生活習慣(挨拶や清掃も含め)を獲得、実践できているか。	B	最終学年の大事な入りが、休校という形で心配されたが、概ね規則正しい生活が送れた。ただ、寒くなってから、決まった者がSHRに遅刻するという点は、残念であった。
	自己の進路実現	1	進路について明確な目標を持ち、その実現のために必要な学習時間の確保ができたか。部活や生徒会活動との両立はもちろん、休み時間など寸暇を惜しむ時間の使い方ができたか。	B	コロナ禍の中、休校分の穴埋めとしてしなの木セミナーなども可能な限り行った。又、志望校の変更を余儀なくされた者も多かったが、前向きに取り組んだ。
	自己と他の人権意識の獲得。	3	自分とは異なる他者の存在を大切に、他者への思いやりを実践でき、いじめなどがないか。	A	講座別の授業などでクラスを越えて多くの人間と交流が出来、他者への気遣いの部分が多く見られた。
	高校生活の総まとめ。	2・3	豊科高校3年生として、また最上級生として自分の役割や立場を自ら考え、様々な各行事に自主的積極的かつ楽しく参加しているか。自分自身が後悔しないことはもちろん、後輩に対して指導することができたか。	B	最上級生として範を示す行事等がことごとくなくなり、残念でかわいそうであったが、現実をしっかり受け止め、出来る中で、やるべき事を行う姿が見られた。

部名称	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
教務	安心、安全で効率的な学校運営を構築することを日常的に心がける。	3	生徒が日常生活を順調に送れるように細やかな連絡や配慮ができたか。	A	豊高安心メールの加入促進を図った。情報発信には、タイミングと情報量の加減、メールに過度に依存しないことを心がけた。コロナ禍の異常事態において効果を発揮したが、万全とはいえない側面もあった。
		1	各部署と連携して生徒の主体的な活動を促すような行事などを企画・実施できたか。	B	各部署と綿密な連絡のもと作成した『年間行事計画』であったが、ほぼ何も実行できなかった。今年ばかりはやむを得ないことだと考える。
		3	想定外の事象に直面した場面でも、慌てることなく緊急の対応がなされたか。また、安心メールを効果的に用いて保護者への連絡が徹底できたか。	A	コロナ、大雨による休校など緊急事態の連続だったが、先生方の適切な対応もあって乗り切ることができた。メールは便利であるが、発信者の意図した通りに全員に伝わらず、言葉選びの難しさを感じた。
	地域や保護者に本校のありようと魅力を積極的に発信する	3	HPなどのツールを利用して関心のある情報を発信できたか。	A	まめに情報収集してHP上で迅速な情報提供に努めているが、担当者が一人で取り組むには限界もある。各方面からの情報提供が求められる。
		1	地域や中学生にアピールする機会として「学校公開週間」等内容深いものにできたか。	B	「授業公開週間」も「学校説明会」もできる範囲で対応した。学校説明会の中学生の参加人数をみると、豊科高校への関心度は高いので、今後もこの機会を続けていきたい。
進路指導	「生徒の自主的・積極的なキャリア研究と進路実現」に向けた計画的な指導と助言を行う。	1	キャリア教育を体系的に運用し、生徒が自主的に自身の将来像を明確化できるように指導できたか。	B	コロナ禍により、キャリア教育に関するガイダンスを中止にせざるを得なかった等、思うようには進められなかったが、学年ごとの進路研究(指導)によって個々の生徒が自身の将来像を考えることができた。
		1	講演会、ガイダンス等の企画運営や進路情報の収集といった生徒の進路実現のための援助が効果的に行えたか。	B	コロナ禍により、進路講演会やキャリアガイダンスの中止や縮小があったが、できる範囲での実施を行い、生徒の進路実現への援助が行えた。
		1	生徒、保護者、職員への適切な進路情報を効果的に伝達し、それを学校全体として共有・活用できたか。	B	生徒、保護者、職員に対して、受験産業(企業)からの情報・情報誌・進路通信を用いて進路情報を効果的に伝達し、それを学校全体として共有できた。しかし、活用面においてはただ伝達するだけでなく、情報伝達会・分析会・報告会を実施すると効果的になると考えられる。
生徒指導	問題行動の未然防止	2	大糸線沿線の不正乗車をなくすため、学校行事等で全校に注意喚起することが出来たか？	B	クラスマッチなどの学校行事にあわせて注意喚起をすることは出来なかったが、長期休業前に「休業中の心得」などを利用し、注意喚起することが出来た。
		3	アンケートを実施し、いじめの実態把握と対応がきちんとなされたか。	A	アンケートを行い、いじめに関する情報を収集すると共に学年会など心配な生徒に関する情報を交換・共有した。
		3	SNSへの不用意な投稿や誹謗、中傷などがあげられないように指導、助言できたか。	B	休業中の心得などを利用し、SNSへの不用意な投稿をしないよう指導することが出来た。
		2	清掃中や授業中のスマホ使用について、全職員で注意喚起することができたか。	B	携帯やスマホについては、継続して指導していく必要性は感じるが授業中のスマホなどは報告されていない。
	地域・家庭との連携	3	中学校・高等学校連絡協議会を通じて情報交換と連携が密に図れたか。	A	コロナ禍の影響で、会議の回数は制限されたが各校との連携は概ね図れた。
		3	PTAからのアンケートなどを活用し、生徒指導に生かすことができたか。	C	地区PTAの開催が見送られ、多くのご意見を聞くことが出来ず残念であった。
生徒会	生徒主体の行事の運営と魅力ある生徒会組織作り	2	各種行事の企画・運営に生徒を主体的に関わらせ、計画的に運営するように指導できたか。本部役員が率先して全校生徒を牽引できたか。	B	コロナ禍の環境の中、各種活動および行事を行うことができた。特に文化祭ではリモートを利用し生徒会役員が中心となり主体的に運営することができた。
	部活動運営の支援	1	運動部・文化部の充実した活動のための支援ができたか。	B	各クラブ顧問の皆様のご尽力のおかげで、支援することができた。
探究学習運営	進路に関する積極的な意識づけと自己の目標の設定	1	「総合的な探究学習の時間」の中で、高校卒業後の自己の進路実現に向けて、各学年の設定した学習目標が達成できたかどうか。	B	休校や活動制限がある中で、生徒の状況を見ながら適切な計画・運営を心掛けた。活動に社会性を持たせていくことが今後の課題である。
			生徒が主体的・協同的に探究活動に取り組み、問いを見出し、調査・分析の結果を表現することを通して、知識・技能を獲得していく活動を計画・実施できたか。(2学年)	B	自分の興味関心や、将来の進路に向けたテーマから、各自主体的に問いを設定し、調査・分析をすることができ、良い中間発表ができた。今後は最終発表に向けて、まとめ、表現を課題として発表準備を進める中で、それぞれが、資質能力を身につけるために、指導者の伴走者としての研修が必要である。
			生徒が地域・社会及び自らとの関わりを考察することを通して、自分自身と向き合いそれぞれの課題を発見しそれを表現する活動を計画・実施できたか。(1学年)	B	初めての試みである公共図書館での活動を通して、地域における図書館の役割や利用方法を学び、自分の哲学課題と向き合うことができた。今後は社会性のある課題に対して問いを見出せるような指導が必要とされる。
保健・環境	生徒の健康状態の的確な把握と安心安全な学校作り	2・3	生徒の健康状態について職員間での共通理解を深めるとともに、健康の保持・増進をサポートすることができたか。	B	コロナ禍で健康診断や諸健診が予定通り実施できなかったが、各家庭や学年と連絡をとりながら学校生活を送ることができた。また、身長・体重・視力検査については、保健体育科の協力の下、授業で実施することができた。
		2・3	生徒の委員会活動や教室・校内の環境整備を通じて、健康的に学校生活を送るための環境衛生の維持に努めることができたか。	A	感染症予防のため、教務部と相談し昼食後に清掃・消毒の時間を取ることができた。また、毎朝の健康観察も継続できている。保健委員が中心となり、各教室の入り口にアルコール消毒を設置することができた。
	校内・校外周辺環境美化	2	学校全体で清掃活動に意欲的に取り組めたか。	A	各清掃担当場所で意欲的に清掃に取り組む生徒の姿が多くみられた。感染予防策として、清掃時間内に机上やドアノブ等の手が触れる部分の消毒を習慣化することができた。
		2	①校内の環境美化活動を計画的に進めることができたか。	A	清整委員会が中心となり、ワックスがけやモップ交換を予定通り実施できた。委員・顧問ともに初めての経験で段取りや手順は手探り状態で進めなければならなかったが、最後まで丁寧に取り組むことができた。
			②校外の清掃活動を計画的に行えたか。	C	コロナ禍で色々な活動が制限されたため、校外活動は特に行わなかった。

部名称	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
図書・視聴覚	資料収集と提供	1	蔵書の構成、また「総合」学習や「進路」学習のための利用をふまえた選書ができたか。	A	限られた予算の中、生徒・職員の要望に可能な限り応えられるよう、対応した。
		1	日頃からの図書館の利用や貸出を促すことができたか。	B	コロナ禍の中、様々な制限があったが利用を促した。
		1	公共図書館や他校との相互貸借ができたか。	A	コロナ禍の中だったか、特に1年探究では、公共図書館の学年利用や相互貸借を行った。
	教科との連携	1	各教科での授業やHR・文化祭等々で、図書館の利用が活発になされたか。	A	文化祭はなかったが、探究や他の授業で図書館利用を行った。
	読書推進活動	1	図書館講座や、活字に親しむように読書週間・朝読書などの行事が予定どおりできたか。	A	コロナで図書館講座は実施できなかった。そのほか概ね、計画通り、実施できた。
		1	資料の紹介・図書の推薦が適切に行われたか。	A	委員会の館報や、職員のおすすめ本の紹介冊子など、いろいろな形で、啓蒙活動を行った。
	放送委員会活動の充実	1	生徒会指導部と連携を取りつつ、生徒会放送委員会の活動をさらに活発になるように工夫できたか。	B	コロナ禍による行事縮小で放送委員の活動の場がなくなり、学校行事の放送ノウハウの伝達が途絶えてしまった。現状、規模を縮小しての昼放送のみの活動である。
授業に生かす視聴覚教材の探求	1	休学要請の時期のオンライン学習を試行的に始めたことにより、さらにICT教育について最新の情報を収集し、かつ共有することができたか。	B	オンライン学習を試行的にせよ始めたことで、将来的に一層の必要性を実感することとなり、間に合わせ的部分の改善、共有する部分や各自の技術面での必要・向上性がさらに望まれる。	
防 災	生命を守る危機管理体制の整備	3	令和2年度防災計画の作成・確認はできたか。	B	現状に合わせて古くなった情報などを手直したが、来年度もしっかりと見直しをしたうえで全職員が情報を共有する必要がある。
	職員の防災意識の向上	3	危急時に備えた職員の意識を高めることができたか。	B	コロナ禍にあって急な対応が求められた。引き続き意識を高める啓発が必要である。
	火災・地震などに対する緊急体制の整備	3	緊急時における職員の初動体制を確認できたか。	B	職員会で確認はしたが、実際の場面で十分に動けるように周知徹底する工夫が必要。
		3	防災訓練を実施することにより緊急体制の確認ができたか。	B	いわゆる避難訓練と消火訓練は出来なかったが、代替りの防災学習は概ね好評であった。今後シェイクアウトなど新しい訓練や実施方法も取り入れる必要がある。
渉 外	PTA・同窓会活動の活性化	3	PTA活動に対する保護者の理解と関心を高め、諸行事への参加率を向上させることができたか。	B	コロナ禍で諸行事が殆ど実施できなかった。より速い情報の発信に努めたい。
教育相談	早期対応 職員研修の充実	3	生徒への早期対応(家庭と学校、担任との連携) ・欠席が続く、不登校、様子の変化への声掛けと対応(目安の日数の提示) ・生徒支援委員と教育相談部の縦横の連携の確立	B	不登校をはじめ諸問題が起こった生徒を、カウンセリングや専門機関につなげることができた。 来年度「生徒指導部」の中に、教育相談部や生徒支援委員の仕事内容が含まれることになり、様々な部署と連携が取りあえることになる。複数の目で生徒をみることができ、生徒へのより早期対応が期待される。
		3	職員研修の充実(研修会・お便り・掲示物) ・校内研修の実施(7/1 信大こころの診療部 樋端先生) ・研修受けた職員が校内で情報発信⇒知識の充実	C	・掲示物、お便りを通じて情報発信をした。 ・感染の状況を見て、樋端先生と時期を伺ってきたが、今年度も実施見送りとなった。 2年越しに企画継続のままなので、来年度は実施したい。
		3	「生活アンケート」の実施(「アセス」の実施を積極的に検討/生活アンケートとの兼ね合い) ・生活アンケート 実施回数を2回に増やす(6・11月/※11月は12年のみ)	B	・生活アンケートの結果について/各学年の生徒支援委員を通じて学年で情報共有できた。 ・「アセス」の実施ができなかった。来年度に引き継ぎたい。
情報管理	教職員のICT機器利活用促進およびオンライン授業のための環境整備	1	各教室に配備されたICT機器利活用の促進、さらにはオンライン授業に係る機器等の整備や環境構築が行えたか。	B	プロジェクターやタブレット端末のリース切れにより、一部の教科や教室で機器が不足状態となり、授業に支障が出てしまった。県の予算が厳しい中ではあるが、引き続き順次購入整備を進めていきたい。
	Wi-Fi環境整備事業による校内のネットワーク利用の整備	1	Wi-Fi環境整備事業による各教室へのWi-Fi(無線LAN)導入に係る校内の管理運用体制の構築、およびWi-Fiの効果的な利用促進が行えたか。	B	事業計画自体に遅れが生じているため、校内の管理運用体制の構築までしか整えられなかった。導入前に想定できる問題点を1つ1つ解決する努力をしていきたい。
	統合型校務支援システムの導入および安心・安全な情報資産の維持管理	1	統合型校務支援システムの導入を適切に行うことができたか。また、そのシステムを活用しての情報資産の管理と利用、さらには教職員へのシステム利活用促進ができたか。	B	事業計画自体に遅れが生じているため、校内の管理運用体制の構築までしか整えられなかった。導入前に想定できる問題点を1つ1つ解決する努力をしていきたい。

委員会名称	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
入学者選抜	確実・効率的な選抜業務の遂行		昨年の反省を活かした準備と確実な選抜業務が遂行できたか。		3月に実施のため、評価はこれからです。
将来構想・学習検討	本校の将来像の具体化を目指す	1・3	本校の現状を具体的に分析し3つの方針の具現化へ向け四者協議会を開催するなど多角的に意見討論する機会を設定すること。	A	11月に「豊科高校未来を語る会」を実施することができた。12月の職員研修会では生徒の学びに対する「自らの意思」について積極的な意見交換をすることができた。
	本校の目指す生徒育成方針に沿った実践	1・3	生徒・保護者・教職員を対象としたアンケート結果を基に、教育活動に対する情報共有を密にし研究・研修を重ね、より良い育成の方向性を構築すること。	B	授業評価を2回(8月と12月)、学校評価を1回(12月)実施。今後の教育活動の改善に生かしたい。
人権教育	人権意識の向上	2・3	人間尊重の意義、および様々な人権問題についての正しい理解と知識を深める学習ができたか。	B	全校で自転車世界旅行をした地元冒険家の話を聞いた。異文化・異民族との触れ合いの話を聴き視野を広げ異文化理解を促すことができた。1、3学年はリモート中継による視聴であったが、やはり生講演を聴かせてあげたかった。
		3	互いを認め合い、友情を育む教育活動ができたか。	B	コロナ禍の制約の下、工夫された文化祭や学校行事を通し一定の交流があった。日常生活や学校行事、生徒会活動、部活動の役割の大きさを改めて痛感する1年であった。
教育課程	生徒の多様な進路希望に対応するような教育課程を実現する	1	2・3年生の講座別授業と生徒の多様性に応じるための選択科目が効果をあげているのかを検証しながら、望ましい選択科目を検討する。	B	1・2学年を中心に進路指導を通じて、生徒の多様性に応じた科目選択を実現することができた。今後も学習意欲が高い生徒が増加し、授業が活性化していくような科目選択指導が求められる。
	豊科高校の将来像を念頭に、新高等学校学習指導要領に基づいた新教育課程を完成させる	1	本来の将来構想と新たな教育課程が生徒の実態に即し、発展性のあるものになっているか。	A	豊科高校の将来像を描く『3つの方針』に準拠する教育課程を模索した。現時点では本校の将来像に沿うものができたと思われる。新教育課程の教科書採択に合わせ、問題点を洗い出し、改善・修正されることを願う。
	生徒の「思考力、判断力、表現力」を伸ばす授業に向けての啓発や情報提供をおこなう	1	新たな授業スタイルを構築することが求められるなかで、効果的な情報提供がなされているか。	B	ICT機器の導入やオンライン学習の試行などに合わせて、新たな授業スタイルを確立させようとする工夫が生まれてきた。新教育課程における『評価の観点』を各教科内で検討に入ること望む。
学校衛生	職員の安全衛生及び健康保持増進を図る	3	職員の健康診断(人間ドック含)を全員実施が達成できたか。	A	該当者に書面交付をこまめに行い全員受診となった。人間ドック受診勧告も2回実施したが、コロナ禍受診病院を変更するなどの配慮対応が必要となった。
		3	衛生委員会を定期的に開催できたか。	A	コロナ禍において、定期的開催は行わず書面交付を毎月行い、広く周知できた。
合宿所運営	使用規定の遵守		スムーズな手続きで利用することが出来たか。	B	コロナ感染拡大に伴いクラス合宿やクラブでの合宿等も行われなかった。通常のクラブ活動ではスムーズに運営することが出来た。
生徒支援	早期発見・対応【教育相談部との縦の連携】	2・3	①早期発見—各学年に所属する委員が、学年や担任の情報を教育相談部に伝える。 【教育相談部との縦の連携】 ②早期対応—欠席継続の生徒への対応。また様子の変化がある生徒への声掛け。担任との情報共有。	B	・「生活アンケート」結果—学年委員を通じて、各学年で情報共有できた。 ・委員会から挙がってきた生徒について、教育相談部で対応することができた。
セクハラ対策	被害者・加害者にならないためのセクシャルハラスメントの正しい理解を推進する。	3	様々な機会をとらえて研修等を実施することで、意識の向上が図られたか。	A	相談件数0件。非遵行為防止研修の中で、意識を高める内容を盛り込んだ。
学校評議員 校内運営	学校運営に生きる情報の発信と収集を行うとともに、学校の外部者からの提言内容を検討する。	1・3	学校評議員からの意見や提言を学校運営に活かす方向で検討することができたか。	B	コロナ禍で初回開催が9月に。審査中のため授業参観はできなかった。また、学校行事への参観についても、10月の授業公開週間への案内しかできなかった。生徒会主催の「未来を語る会」には吉野区長さんを招聘。
しなの木 セミナー運営	進路実現および学力向上のための支援を行う。	1	進路実現と学力向上のたけに有効な講座設定や円滑な運営ができたか。	B	コロナ禍にあつて、3年補習は、学校再開まもなく開始。保護者からも、セミナー実施に感謝する声が寄せられた。外部講師を呼ぶなどセミナーの一層の充実を図りたい。
いじめ対策	いじめの未然防止・早期発見に向けた生徒指導の取り組みについて研究し実践する。	3	「学校いじめ防止等のための基本的な方針」に基づき、未然防止・早期発見のための職員間の連携を強化できたか。	B	県教委心の支援課の「学校いじめ防止基本方針」を参考に見直しを行い、一部改訂。今後も、全職員への一層の周知と共通理解を図る必要がある。
		3	迅速な問題対応とその指導が適切になされたか。	A	学校生活アンケート(7月、生徒支援委員会)や日常の生徒観察・個別面談を通して、いじめが懸念される事案に対し、関係部署で適切な対応を早期に進めることができた。認知件数0が継続している。(1月現在)
コンプライアンス	公務員としてのコンプライアンス意識を高めるために職場全体で研修に取り組む	3	年間を通して効果的な研修が行え、その結果として個人・職場としてのコンプライアンス意識が向上したか。	B	臨時休校等があり研修の機会が十分に持てなかった。引き続き服務規律の徹底を図るため、参集せずに行える研修方法を工夫したい。
図書選定	資料収集と提供	1	蔵書構成や利用をふまえた選書ができたか。探究的学習の一助となれたか。	A	探究学習の一助となる本の選定を始め、多くの利用を図るための選定を行った。